呼吸器外科　　医長　平見　有二

●診療科の特色

1. 呼吸器外科では胸の中にある肺、縦隔などの病気を中心に手術を行っています。病気の診断、評価は呼吸器内科、放射線科、病理診断科と連携して行われ、手術で良くなる状況かどうかを判断しています。
2. 手術症例の 6～7 割は肺がんであり、命に関わる病気でもあるため肺がんには最も力を入れています。がんを治すことにこだわり、手術手技はもちろん、放射線、薬物療法を組み合わせることにより手術で治るかどうか、ぎりぎりのところで差のつく高度な医療を提供できるよう心掛けています。当科では進行癌を扱うことが多く、今年度の手術症例の半数以上は術後補助化学療法が必要な肺がんでした。
3. 気胸、縦隔腫瘍などの多くの病気、難治性の病気などに対しても対応しています。最近増えている肺気腫、間質性肺炎、塵肺などに合併する難治性の気胸に対しては根気よく治療にあたる必要があり呼吸器内科、放射線科と話し合い、多くの治療戦略を立てて対応しています。
4. 胸腔鏡下手術に関してですが、当院では患者さんへの手術による体の負担、痛みを減らすため、また創部の綺麗さにこだわって、積極的に導入してきました。手術器具も年々進化しており、より安全になっています。さらに身体への負担を少なくする試みもありますが、当院の役割としては実績ある手技の技術を限りなく高めて患者さんに提供するスタンスです。
5. 2024 年 2 月からロボット支援胸腔鏡下手術を開始しています。技術の進歩により手術がやりやすくなる場面が多くあります。多くの患者さんに還元できるよう努めていきます。
6. 初診の患者さん、そのご家族からは十分な時間をかけてお話しを伺うようにしています。十分な説明の上、皆が前向きな気持ちで治療へと進めるよう心掛けています。
7. 一般に肺の手術は難易度が高い手技とされています。安全、かつ確実な手術を提供できるよう日々努めています。手術に入るスタッフが固定しているため安定した医療を提供できていると思います。

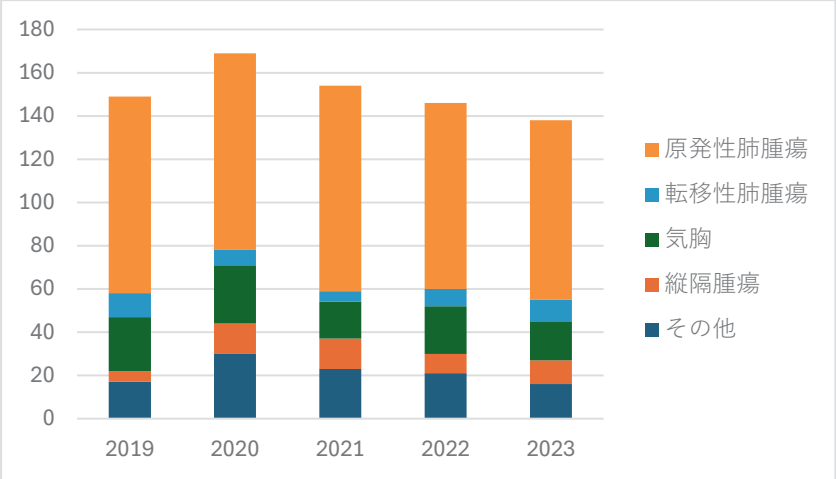
●入院診療実績

1. 主要手術(全身麻酔)

2023 年度(2023.4～2024.3)　手術件数　138 件

	手術名	件数
1	原発性肺癌	83
2	転移性肺腫瘍	10
3	気胸	18
4	縦隔腫瘍	11
5	その他	16

2. 手術件数の推移（全身麻酔）



● 研究業績

論文

1） 鳥越　英次郎,神農　陽子,平見　有二
肺動静脈との交通を有する孤立性線維性腫瘍
胸部外科,76,4,316-319,2023 年 4 月 1 日

学会発表

1） 肺気腫合併肺癌に対する当院の術後エアリークの予防と対策
鳥越　英次郎
第 40 回　日本呼吸器外科学会学術集会　2023 年 7 月 13 日

2） 胸腺腫に対する胸腔鏡下胸腔内アプローチによる胸腺部分切除の手術成績
賀来　潤一
第 40 回　日本呼吸器外科学会学術集会　2023 年 7 月 13 日

3） 甲状腺癌術後上縦隔リンパ節再発に対して胸腔鏡下手術を行った 2 例
津野　夏美
第 40 回　日本呼吸器外科学会学術集会　2023 年 7 月 13 日

4） 小型肺癌に対して積極的縮小手術を選択する際に考慮すべき臨床的背景
平見　有二
第 85 回　日本臨床外科学会総会　2023 年 11 月 16 日

5） 頸椎損傷を契機として発症した SMA 症候群に対して腹腔鏡下バイパス術を施行した1例
津野　夏美
第 184 回　岡山外科会　2023 年 11 月 18 日